



三条大路一丁目地区 観光拠点整備事業

古都の新たな観光交流～滞在型観光へ変革～

現在 now

将来 future

客室数が全国最下位

まちなかの公有地の有効活用

日帰りの観光が多く、経済効果が限定的

- 観光振興施設の設置
- ホテルの誘致
- バスターミナルの建設



観光交流拠点施設(完成イメージ)



国際ブランドホテル(完成イメージ)



国際ブランドホテルの誘致と併せ、観光交流拠点施設を整備

滞在型観光へ変革し、経済効果を拡大

平成32年 まちびらき予定



想定される効果(平成28年5月試算)

◇ 県内GDPへの波及効果

10年間で 約980億円

20年間で約1,780億円

◇ 雇用誘発数

約2,200人

※奈良県試算



観光振興施設、ホテル、バスターミナルを複合した総合整備を実施

平成32年東京オリンピック・パラリンピック開催までに「まちびらき」を予定

観光客が奈良を体感できるよう「奈良らしさ」を体現し、日帰りから滞在型観光へ変革